

和歌山だよいい

平成21年 5月号



上：一枚岩（古座川町）

CONTENTS

1. 知事メッセージ…………… P1
2. 和歌山県政トピックス…P2～P6
3. お知らせ…………… P7～11
4. ふるさと歳時記…………… P12



杜若（かきつばた）

「和歌山の若者万歳」

時々中学や高校に招かれて、講演をする機会があります。その際、生徒会長さんが出て来て、お礼の挨拶をしてくれたりしますが、その話しぶりのすばらしさに感心することが再々です。昨年の6月にはホテルの研究で内閣総理大臣賞や環境大臣賞を取っている広川町の津木中学を訪問して研究の説明を受けましたが、生徒さんの発表のすばらしさに感服いたしました。時々スポーツでとても良い成績を上げた生徒さんが報告に来てくれますが、彼らのさわやかな態度にいつも感銘を受けます。

先日は「日本の次世代リーダー養成塾」という県知事の有志が作った若者の育成のためのフォーラムに参加して帰って来た高校生諸君の報告を受けることができました。元気な若者が、参加した経験をそれぞれ語ってくれましたが、他県のすばらしい仲間^{がぜん}に刺激を受けたとか、塾の講師の良いお話で俄然何事にもやる気が出て来たとか、なかなかいい話がたくさんありました。中でも感心したのは、自分が得た良い経験は皆に還元しなければいけないと考えて、学校の仲間を巻き込んで活動を続けているというお話でした。このフォーラムにはほんの少しの人しか参加出来ませんから、選ばれて参加出来た人は、いわばエリートなのです。その人が自分だけのプラスを考えるのではなく、それを皆に分ち与えようとしていることは、本当のエリートというにふさわしい行動だと思いました。

和歌山には、立派な若者が続々と育っています。和歌山の若者万歳。



「次世代リーダー養成塾」に参加した、高校生から報告を受ける仁坂知事。

今月の和歌山県政トピックス

* 最近の県政の動きや県内の話題などをピックアップしてお届けします。

●「JTの森 中辺路」の森林保全活動

・4月18日、田辺市中辺路町野中地内にある「JTの森 中辺路」において、JTグループ社員やその家族約110名が参加し、和歌山県、田辺市、中辺路町森林組合と協働で森林保全活動が実施されました。

・「JTの森 中辺路」は、JTが会社化20周年を記念して開始された植林／森林保全活動の第一弾として、本県の「企業の森」事業に参画してできた森です。世界遺産に登録された田辺市中辺路町「紀伊山地の霊場と参詣道」の熊野古道周辺において、2005年3月から5年間に亘り約50haの森林を対象に約18万本のケヤキ、コナラ、モミジ、ヒノキ等の植林を行っています。

・今回は、植林作業の最終年ということで、記念セレモニーが行われ、仁坂知事が「JTの森中辺路は、企業の森のなかで最大の50haも植林していただき、大変ありがたい。植林は今回で最後となるが、これからも下草刈りなどの手入れが必要ですので、引き続き和歌山にお越しいただき、この辺の風物も楽しんでいただきたい。」JTの木村宏代表取締役社長は「JTの森第1号の場所であり、後の活動を進める際に大変役に立っている。現在は10年間の活動について協定を結んでいるが、10年といわず末永く活動させていただく。」とそれぞれあいさつがあり、その後、田辺市副市長、土地所有者である近野振興会会長、地元の近野小学校の生徒らとともに、記念植樹を行いました。



●「企業の森」事業に1団体が参画し、49箇所

・本県が進める「企業の森」事業に新たに「株式会社パンジー（パンジーまごころの森）」が参画することになりました。5月15日に県庁で調印式を行いました。パンジーは創業以来、「忠恕」の2文字を経営理念に、「真心を尽くし、思いやりをもつ」ことで常に商品づくりを進めてこられました。そうした思いを胸に、この度、和歌山県の森林に、まごころもった植栽と保全活動を行っていただけることとなりました。

・「企業の森」は県内で現在48箇所あり、今回の株式会社パンジーの参画で49箇所となります。県長期総合計画では、100箇所に増やす目標を掲げています。

● 「'09 食博覧会・大阪」でわかやま産品をトップセールス

～人気の橋下大阪府知事、東国原宮崎県知事とコラボレーション～

・5月2日、インテックス大阪（大阪市）で開催された「'09 食博覧会・大阪」で、仁坂知事が大阪府の橋下知事、宮崎県の東国原知事とともにステージ上で地元産品のPR合戦を繰り広げました。

・両知事の人気も利用させてもらって、自慢の和歌山の物産、観光を売り出そうという試みです。知事は、白浜に7頭いるパンダの宣伝をするためのパンダ帽子をかぶり、ケンケン鰹や梅干、紀州備長炭などを、ステージに詰めかけた多くの来場者に売り込みしました。

・その中で知事は、和歌山県の農産物は収穫前と出荷時と、安全性の検査を2回、ダブルチェックしているので世界一安全とか、和歌山は高野熊野の世界遺産、美しい海や川、温泉などすばらしい所なので是非来て下さいと強調しました。



仁坂知事が橋下・東国原知事と特産品をPR

メインステージでのPRの後、3人の知事がそれぞれの府県のブースを回って特産品を試食し、意見交換を行いました。

・和歌山県のブースで、100%みかんジュースやめはり寿司、抹茶ソフトクリームなどを試食した橋本・東国原両知事は「美味しい」と舌鼓を打っていました

・知事は「大阪はわかやま産品の大きな市場なので、多くの来場者に和歌山の産品の良さを知っていただきたい」と話していました。



和歌山県ブースでの試食

「食博覧会」とは？

日本最大の食の祭典（4年1回開催）

開催期間：平成21年4月30日（木）～5月10日（日）

会場：インテックス大阪開催期間中約64万人が来場、和歌山県ブースでは「プレミア和歌山」の紹介と梅干し、抹茶ソフトクリーム、みかんジュース、めはり寿司、天然塩等を販売

● 松阪屋（名古屋市）でプレミア和歌山物産展を開催



・プレミア和歌山（和歌山県優良県産品推奨制度）に認定された和歌山県の逸品をアピールするため、4月22日～28日、松阪屋において「プレミア和歌山物産展」を開催しました。



- ・今回は、マグロ井、清酒や梅干し、うすかわ饅頭、鰹、姫ひじきなどを出展しました。
- ・今後も、和歌山県産のブランドイメージの確立を目指し、「和歌山ならではの」逸品を広く全国に売り出していきます。

● 近畿自動車道紀勢線（御坊～紀伊田辺間）の4車線化に伴う整備計画の変更が認められました！

・地方にとって、高規格幹線道路をはじめとする幹線道路ネットワークは、企業立地や観光振興、農林水産業の振興など、地方が将来に亘り発展するチャンスを保障するものとして早期整備が不可欠です。

・4月27日に開催された「第4回国土開発幹線自動車道建設会議」において、近畿自動車道紀勢線の御坊～南紀田辺間の4車線化に伴う整備計画の変更が認められました。

・今後は、事業中の海南～有田間の4車線化や田辺～すさみ間などと併せて整備促進を図ります。

・さらに、未事業化区間についても、環境影響評価の手続き中である有田～御坊間の4車線化の早期事業化をはじめ、すさみ～太地間の環境影響評価の早期実施による整備計画への格上げや、新宮～県境間の早期事業化に向けた調査の推進を、引き続き国や関係機関に強く働きかけ、高速道路ネットワーク整備による「国土のミッシングリンク」の早期結合、紀伊半島一周の高速道路の早期実現を目指します。

●和歌山県立自然公園の抜本的見直しを行いました

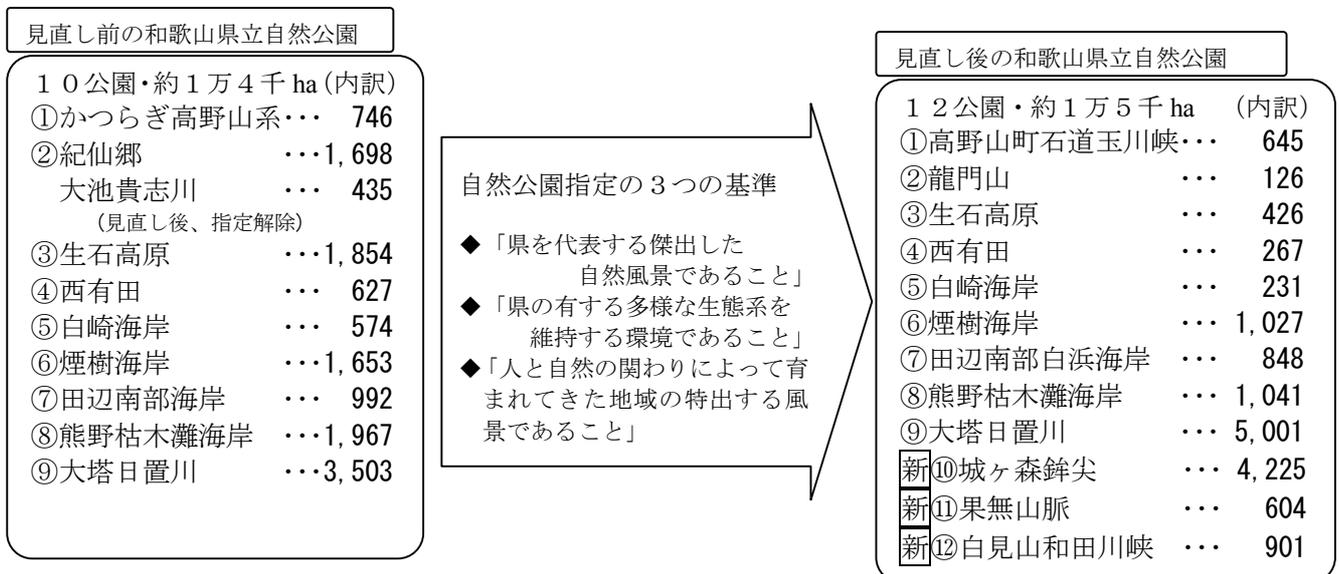
・和歌山県は、紀伊山地の雄大な山並み、大小多数の河川や黒潮に洗われる海岸線など変化に富んだ地形、また特色のある植生など豊かな自然環境に恵まれています。

・県立自然公園はこれまで10カ所指定されてきました。観光施策推進の性格が強く神社仏閣やダム湖などの人工的な景観も含まれ、制度発足から50年以上経過した現在、都市化の進行や道路等の基盤整備の進展、世界遺産の指定、生物多様性の確保など、指定当初と比べ、取り巻く諸条件が大きく変化しました。そうしたことを踏まえ、自然公園制度50周年を迎えた平成19年に、県内全域で、自然環境の保全と生態系確保に主眼をおいた自然公園の抜本的な見直しを行い、平成21年4月28日に公示しました。（下図参照）

・なお、「古座川」も続いて、県立自然公園に指定する予定です。

・今回の見直しで、より確実に和歌山県内の自然を守っていくことが出来ます。

自然環境室のホームページアドレス：<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/032500/index.html>



● 定額給付金支給を契機とした県内需要振興事業の取り組み状況

・県内で支給される約160億円の定額給付金を県内景気刺激策のチャンスとしてとらえ、県内需要に結びつけることが必要です。

・そこで県では、定額給付金をターゲットに、域外への消費流出を防止し、域内消費の拡大をめざした取り組みを幅広く支援することとしました。

・具体的には、市町村が「プレミアム付き商品券（県内での使用に限定しているもの）の発行事業」や「商店街などでの特別セール実施事業」など、定額給付金をターゲットに県内消費の拡大をめざす取り組みを行った場合に補助を行うものです。

・県内市町村での取り組み状況（4月23日現在）は、「プレミアム付き商品券の発行を支援：13市町」、「消費拡大イベント・セールなどを支援：4市町」、「実施内容を検討中：3市町」となっています。

●わかやま<クールビズ&うちエコ>ファッションショー開催

・今夏で5年目を迎える「クールビズ」。今後、官公庁だけでなく、民間での一層の浸透を図っていくためには、クールビズとしてファッション性が高く、実用的なコーディネートを紹介し、「ネクタイを外すと失礼に当たるのではないか」といった一般的な心理的要因や商習慣を払拭することが不可欠です。



・そこで県では、近鉄百貨店和歌山店・和歌山市役所とタッグを組み、『わかやま<クールビズ &うちエコ>ファッションショー』に、

県職員及び和歌山市役所職員（各5名）がモデルとして参加し、官民が協力して、ファッション性が高く、社会に受け入れられるコーディネートを目指した「クールビズ」を発信しました。

・5月4日「紳士服売場」で開催されたファッションショーには、職員は緊張した様子でしたが、多くの人で賑わい盛況でした。

●都市エリア産学官連携促進事業（一般型）に採択！

・県は、県特産果実である柿と梅に関して、新しい機能性を活かした食品や食品素材の開発と産学官連携の促進を目的とした研究開発事業を、文部科学省の平成21年度都市エリア産学官連携促進事業（一般型）に採択されました。

・本事業は、近畿大学先端技術総合研究所・生物理工学部、和歌山県工業技術センター他6研究機関、食品関連企業14社（県内10社、県外4社）による産学官連携体制で実施します。

・研究開発内容としては、柿では酵素を活用した高効率で安全な剥皮システム開発、梅では未利用の梅酢から体内吸収のよい低分子系機能性物質の大量抽出・飲料等食品開発への応用開発等を行うものです。

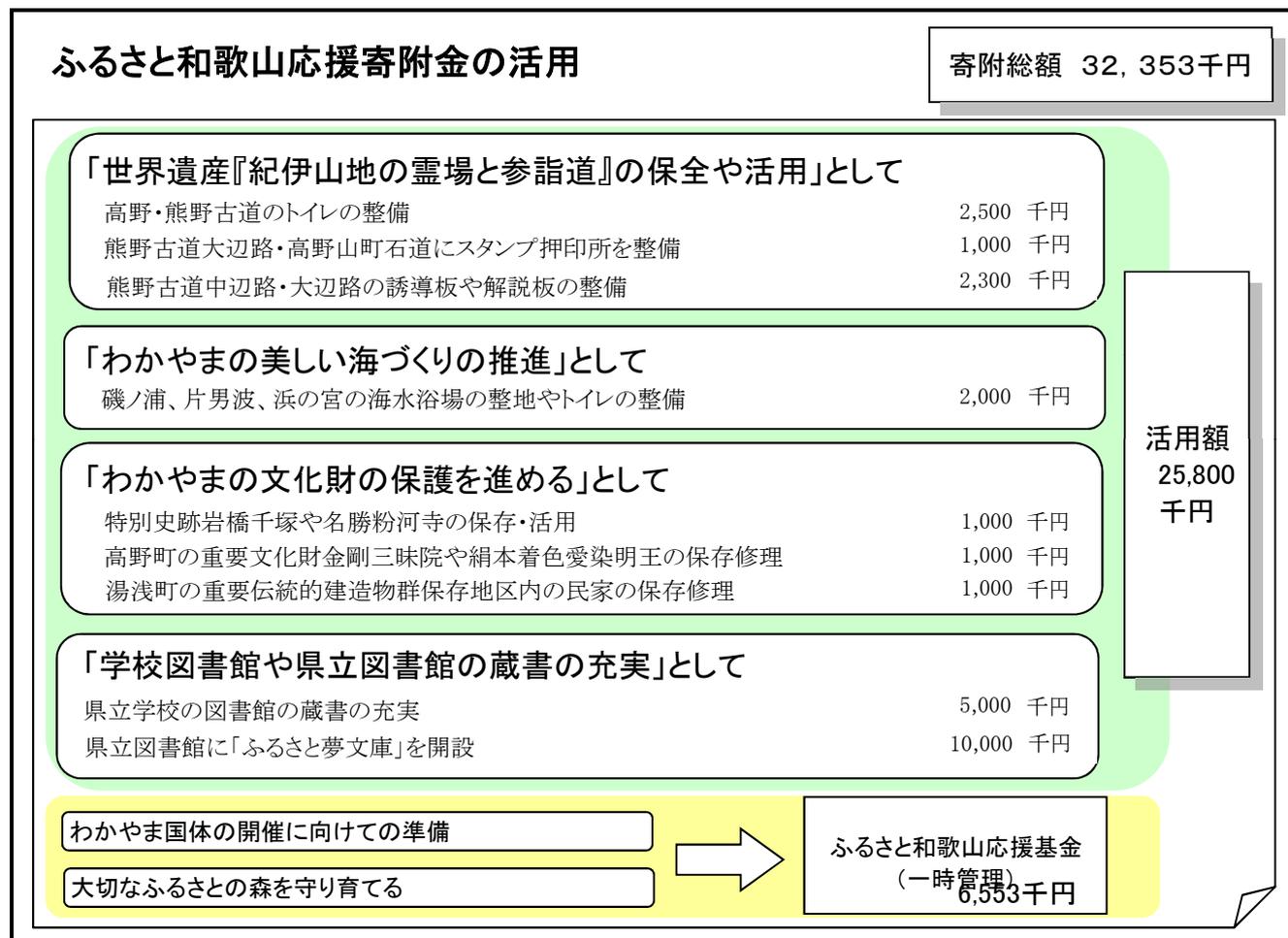
・今後、産学官の交流会や研究会を実施することで、産学官連携の機運を醸成し、連携研究が連鎖的に発生、継続するシステム構築に取り組みます。

ふるさと和歌山応援寄附の御礼と御案内

早いもので、ふるさと和歌山応援寄附のお願いを始めてから1年が経ちました。

お陰をもちまして、平成20年度は112人の方から3235万3千円の温かいご寄附をいただきました。また、心温まる力強い応援のメッセージも多数いただきました。紙面をもちまして厚く御礼申し上げます。

お寄せいただいた寄附金の使途につきましては、次のとおりとなりましたので紙面をもって報告させていただきます。



現在、世界経済は、100年に一度という危機に直面していますが、和歌山県も財政的に非常に苦しい状況にあります。

本年も、引き続き、ふるさとわかやま応援寄附を通じて和歌山県を応援してくださいようお願い申し上げます。

詳しくは和歌山県のホームページ上の「ふるさと和歌山応援サイト」をご覧ください。また、「YouTube」にも「ふるさとわかやま応援寄附」についての知事のメッセージを掲載しておりますのでご覧ください。

○ふるさと和歌山応援サイト（URL <http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/furusato/>）

ふるさと和歌山応援サイトでは、寄附申し出時に公表に同意していただいた方のお名前やメッセージを掲載しています。ぜひ、ご覧ください。

～ふるさと夢文庫オープン～

昨年度、紀の川市（旧貴志川町）出身の女性から県に、『ふるさと和歌山応援寄附金』として1,000万円の寄附金が寄せられました。

この寄附金を基に、県立図書館内に『ふるさと夢文庫』を作り、図書3,043冊を揃え、4月28日にオープンしました。（下写真）

1 展示コーナー（3か所）

○県立図書館閲覧室（742冊）

大活字図書や世界遺産関連図書、全集等の一般図書の展示・貸出

○県立図書館児童室（281冊）

貸出のできる図鑑・事典等や英語関係の児童書等の展示・貸出

○県立紀南図書館閲覧室（約390冊）

大活字図書や世界遺産関連図書、全集等の一般図書の展示・貸出

2 県内の小中学校を対象とした貸出用（1,630冊）

○子どもの読書や調べ学習などのためにテーマ別に揃えた児童書や読み聞かせのための大型絵本、紙芝居等



和歌山県では、「和歌山の魅力を磨き売り出す」「和歌山へ招く」「和歌山でもてなす」を3本柱に据え、具体的な事業をとりまとめた「和歌山県観光振興アクション・プログラム2009」、国内外への販売促進を強化し生産者の所得向上を目指す「アクションプログラム2009 和歌山県農水産物・加工品の販売促進戦略」を策定し、4月から積極果敢な施

和歌山県観光振興アクションプログラム2009

～交流人口を拡大して県勢発展を牽引する観光を目指します～

◆ アクションプログラム2009の概要 ◆

1 8つの魅力で和歌山を売り出す

- ①世界遺産 登録5周年記念事業や地域主導の魅力づくりへの支援
 〈記念事業〉 シンポジウムで価値と魅力を発信(東京、名古屋、大阪、和歌山、田辺市本宮)
 高野山町石道・熊野古道におけるウォークイベント開催
 山岳宗教都市との交流支援(高野町とイタリア・アッシジ市)
- 〈高野〉 外国人への情報発信の強化、高野山町石道におけるスタンプ整備、
 南海観光列車「天空」を活用した高野エリア周遊観光の促進
- 〈熊野〉 熊野詣での目的地である熊野三山巡りのPR、JRとのタイアップキャンペーン、
 大辺路ルート・小雲～大雲取越への誘導板・解説板整備、大辺路スタンプ整備
- ②温泉 各温泉地の特色ある魅力の創出(例:白浜のクエ、勝浦の町歩き、龍神の美人湯、
 ジビエの活用)、湯めぐりや足湯、各地の日帰り温泉の魅力発信
- ③ほんまもん体験/田舎暮らし 地元旅行者による旅行商品化の支援、受入体制の整備
- ④歴史・浪漫 徳川ゆかりの地、紀伊万葉ゆかりの地、紀の川流域歴史散策、
 海南・湯浅・御坊・田辺・新宮など古い街並み・歴史散策
- ⑤四季折々の魅力 情報誌やラジオでの旬の情報提供、「花旅」による誘客促進
- ⑥食の魅力 食が主目的の旅「食旅」の振興(県観光連盟HPのリニューアルによる情報発信)、
 日高・白浜のクエ、勝浦のマグロ、加太の鯛、すさみのイノブタ等のPR
- ⑦自然の素晴らしさ ラムサールの海(串本)、白崎の海(由良)、漁船クルージング(田辺)
 マリンスポーツ等アウトドアスポーツ
- ⑧ブランド 「プレミア和歌山」との連携

2 和歌山へ招く

- ①首都圏から マスコミや旅行エージェントへの売り込み(広報室・わかやま喜集館との連携強化)、
 高野・熊野講座、観光物産PRイベントの実施、
 首都圏から近い南紀白浜PR、
 修学旅行の誘致商談会・旅行社キャラバン・現地研修会の開催実施
- ②近畿圏・東海圏から 高野・熊野・紀伊万葉講座、JR・南海・高速道路会社とのタイアップ
 (紀勢本線全通50周年記念事業等)、マスコミ・旅行エージェント対策、
 リピーター化の促進(スタンプラリー実施等)
- ③海外から…《次ページのとおり》

3 和歌山でもてなす

- ・宿泊施設従業員など、第1線で観光客に接する観光関係者の「おもてなし力」向上。リーダーの養成
- ・和歌山大学観光学部との連携による人材育成(観光カリスマ講座、インターンシップ)
- ・民泊受け入れ体制の拡充(組織の拡大・整備)

◆ 2009年度 重点的取組 ◆

【高野・熊野】 ～世界遺産登録5周年＝その魅力の向上・発信～

- ◆5周年記念事業…＜世界遺産地域の魅力を国内外に発信＞
 - ・シンポジウム(三大都市圏、スペイン姉妹道交流、「世界遺産熊野本宮館」オープニング)
 - ・ウォークイベント(清掃や道普請の保全ウォーク、三重・奈良とのリレーウォーク)
 - ・将棋名人戦高野山決戦開催のほか関連地域における記念事業
 - ・山岳宗教都市との交流支援(高野町とイタリア・アッシジ市)
- ◆高野エリア…＜山内の魅力アップと滞在時間の延長＞＜外国人観光客への情報提供充実＞
 - ・精進料理や宿坊体験など、心身をリフレッシュさせる旅行先としての魅力紹介
 - ・高野町観光ホームページの多言語化支援 ・高野山町石道でのスタンプ整備
 - ・高野山と九度山などその周辺地域の観光資源を活用した魅力向上・PR
 - ・高野山の欧米等海外でのブランド力強化(ミシュランガイド★)
- ◆熊野エリア…＜ウォークの基盤整備と誘客の仕掛け＞＜紀伊路＞
 - ・熊野古道(小雲～大雲取越)の道標類の統一
 - ・熊野古道(大辺路)におけるスタンプ整備と周辺地域を含めたウォークコースへの誘客
 - ・奈良県と連携した熊野古道小辺路ルート形成



【海外からの誘客】 ～国別の嗜好傾向や旅行熟度に合わせた誘客活動の強化～

- ◆成熟市場…＜消費者へ直接アピールするメディアの活用＞
＜県内観光事業者との連携したプロモーション活動＞
 - 台湾＝現地メディアを活用した一般消費者への直接的な情報発信、教育旅行の誘致
 - 香港＝夏・冬など四季を求める香港人の嗜好を踏まえたプロモーション
 - 韓国＝ゴルフや温泉などのPRによる情報発信
- ◆途上市場…＜JNTOや近畿府県等と連携したプロモーション活動＞
 - フランス＝ミシュランの★★★評価を獲得した高野山人気の一層の拡大
 - 中国＝日本にも近く、富裕層の多い北京や上海をターゲットにした和歌山の認知度向上
- ◆これからの市場…＜認知度の向上＞
他の諸国(タイ、シンガポール、その他)
 - ＝関西広域機構や市町村との連携によるメディアへの露出拡大、航空会社と連携したPR活動
 - ・トルコ・エルトゥールル号遺品展示会と連動した



【おもてなし】 ～接客第1線のおもてなし力向上～

- ◆地域全体の「おもてなしの心」醸成…観光関係者、県民向けオープンセミナー
- ◆観光関係者の「おもてなし力」向上
 - ・旅館・ホテルの接客係や公共交通機関(バス、タクシー)の乗務員に対する接客能力向上研修
 - ・広く職場や地域におもてなしの心と接客技術を伝えるリーダーの養成研修
- ◆快適なトイレ環境の実現



アクションプログラム 2009 和歌山県農水産物・加工食品の販売促進戦略

～国内外への販売促進を強化し、生産者の所得向上を目指します～

◆アクションプログラム2009の概要◆

【「わかやま産」ブランドの向上】 ～産地間競争を勝ち抜くため、ブランドの確立を推進～

◆広報活動の強化・・・わかやま産品の魅力を全国に発信

- ①各種メディアへの企画提案活動の実施
- ②まるかじりニュースレターの発行（流通・マスコミ等にわかやま産品の情報発信）
- ③QRコードを活用した情報発信（生産者情報やわかやま産品情報等の発信）

◆首都圏等大消費地での販売戦略の展開

- ①有名百貨店への提案活動の実施
 - ・百貨店バイヤー招へい
 - ・わかやまフェアの提案
- ②首都圏等でのイベントの実施
 - ・出前喜集館による首都圏イベントへの出展
 - ・観光・物産プロモーションイベントの開催（赤坂サカス、御堂筋KAPPO）
- ③一般消費者向け展示会への出展
 - ・首都圏等大消費地で開催される一般消費者向け展示会への出展



松坂屋本店 プレミア和歌山フェア



09食博覧会

【販路開拓】 ～大消費地の消費者が「わかやま産」をいつでも購入できる仕組みづくり～

◆三ノわかやま喜集館の展開・・・わかやま喜集館の分身づくり

- JAグループ
 - ・JAグループ特約店でのわかやまコーナー設置
- 量販店、百貨店、コンビニ等（JAグループ以外）
 - ・継続販売が可能なわかやまコーナー設置のための仕組みづくりの推進

【海外市場開拓】 ～蓄積した情報や成果をもとに新たな海外市場を開拓～

◆国際見本市への出展

アジア、EU、北米で開催される国際見本市に出展

◆海外での商談会の開催

県内事業者が渡航して海外での商談会を開催
（開催候補地 香港）



輸出用ロゴマーク

【アグリビジネス構築】 ～新農林水産業戦略プロジェクトの推進と売れる商品づくり～

◆新たな加工食品の開発・・・優れた農水産物を活用し食品産業と連携した新たな加工食品開発

- ①素材の掘り起こしと商品開発支援
 - ・中小企業元気ファンド、農商工連携ファンドの活用促進
 - ・地域の原材料シーズと加工業者の技術シーズの掘り起こしとマッチング
 - ・研究機関との連携強化
- ②大手食品・飲料メーカーとの連携強化
- ③「新農林水産業戦略プロジェクト」の推進

～ 古座川の清流、奇岩の神秘、柚子（ゆず）の里 古座川町 ～

初夏、古座川にカラフルなカヌーが出現。川下りを楽しむ人の中には、手作りカヌーの人も。また、間もなく、鮎の解禁で川は、多くの釣師でにぎわいます。古座川は、環境省「平成の名水百選」に選定された日本有数の清流です。



奇 岩

○一枚岩（表紙写真）

相瀬地内にある国指定の天然記念物。一枚岩、高さ100メートル、幅500メートルの一枚の大きな巨岩が川淵からそびえ立つ姿は重厚。周辺には、桜、せっこく、紀伊じょうろうほととぎすの花が咲き乱れ、変化のある景観を楽しむことができます。

○蟲喰岩（むしくいいわ）

池野山地内にある国指定の天然記念物。石英粗面岩（せきえいそめんがん：流紋岩（火山岩））の巨岩が風雨に浸食されて、その壁面に大小無数の穴があるため、蟲喰岩と呼ばれています。頂上に近い洞窟の所のほころには、観音様が安置。穴のあいた小石に糸を通し、願掛けをすると耳の病が治る言い伝えもあります。

○滝の拝（たきのはい）（表紙写真）

古座川支流。川床の床岩にさまざまな岩穴があり、中央は滝になっています。その滝壺に鮎が集まり、その鮎を素針にかけるのに連日にぎわいます。おとり鮎や餌を使わず釣り糸に針とおもりを付けただけの竿で上下して鮎をひっかける時、おもりが川底をトントンたたくことから、鮎の「トントン釣り」と名付けられています。

柚子（ゆず）

古座川町の特産品の柚子。平井の里では、11月の旬の時期ともなると一面が柚子の香りに包まれます。その柚子を使った「柚子こんにやく作り体験」が人気。地元のこんにやく芋と柚子をまぜてこねて鍋に入れ、自ら作って食べる美味さは格別。また柚子ジュースやマーマレードなども製造しています。

古座川町ホームページ <http://www.town.kozagawa.wakayama.jp>

～編集後記～

風薫る5月を迎え、和歌山は初夏の装いを始めました。和歌山の山々や田圃が生命力に溢れた様々な緑色に輝く季節です。

さて、今月号の「おしらせ」欄でご紹介しましたが、今般「和歌山県観光振興アクションプログラム2009」が策定されました。

重点取組事項として、「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産登録5周年を迎え、その魅力の向上・発信することや、海外の国別の嗜好傾向等に合わせた誘客活動の強化、観光関係者の「おもてなし力」向上等が挙げられております。

私は「おもてなし力」の向上が単に観光振興のみに止まってはならない、地域の活性化、企業誘致や農林漁業等の振興にこそ「おもてなしの心」が必要であると考えています。なぜなら、現在社会において、他の地域や人との交流・コミュニケーション無しに「地域づくり・人づくり・ものづくり」は不可能であり、それらは恒に「おもてなしの心」が求められるからです。

ゴールデンウィークは終わりましたが、すばらしい和歌山の夏はこれからが本番です。是非みなさんお越し下さい。おもてなしの心でお迎えいたします。

こうして編集後記を書いていると、改めて文章を書くことの難しさを感じます。今までは役所内部の決裁文書作成ばかりで、読者の目を意識した文章は学生時代以来となります。お見苦しい点もあるかと存じますが、皆様方の温かいご助言、ご指導方よろしくお願ひします。

知事室秘書課長 藤川 崇

★「和歌山だより」Web版を和歌山県ホームページにアップしています。Web版ならではの美しい画面を楽しんで頂けますので是非ご覧下さい。

和歌山だよりに対するご意見・ご感想をお聞かせ下さい。また、皆様がお持ちの和歌山に関する情報をご提供下さい。今後、皆様のお声を紙面づくりに活かしていきたいと考えています。

(下記のFAX(様式自由)、E-Mail等でお願ひします。)

■FAX 073-422-4032

■E-mail e0001003@pref.wakayama.lg.jp

和歌山県のホームページ

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/>

ふるさと和歌山応援サイト <http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/furusato/>

*個人情報につきましては、「和歌山だより」の発行以外の目的には、使用いたしません。



2009年(平成21年)5月 NO.14

和歌山県 秘書課

〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通1-1

TEL 073-441-2022